

令和6年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	6107	領域略称名	蓄電固体界面科学
研究領域名	蓄電固体デバイスの創成に向けた界面イオンダイナミクスの科学		
領域代表者名 (所属等)	入山 恭寿 (名古屋大学・工学研究科・教授)		

(評価結果)

A+ (研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる)

(評価結果の所見)

<p>本研究領域は、イオンを自在に高速輸送・高濃度蓄積し得る界面構築のための指導原理を確立することを目標として、研究代表者の強いリーダーシップの下で当初の計画以上の成果が得られている。全固体蓄電デバイスの実用化、普及が注目されるなか、固-固界面のイオニクスとエレクトロニクスを一体的に扱う本領域研究推進の意義は大きい。共通の試料、基盤で連携を推進するという優れた研究戦略により、界面基礎に関する横串連携が飛躍的に機能し、計画研究、公募研究の共同研究が着実に進み、数々の画期的、先駆的な研究成果が生み出された。</p> <p>また、若手勉強会の開催、国内ラボ留学、海外武者修行、若手RAなど、博士課程学生を含む学際若手研究者の育成が進んだ。さらに、領域研究の成果を和文/英文の2冊の書籍を作成する等、この分野の活性化に大きく貢献した。</p> <p>本研究領域の波及効果においても、後継として新たな学術変革領域（イオン渋滞学）が立ち上がっており、また、全固体電池の社会実装及び評価・基盤技術開発に関わる研究と連携し、領域の基礎的な取り組みが社会実装・実用化に進んでいる点も高く評価できる。</p>
